

# 農業復興 礎になる

## 信頼回復へ徹底検査

同社は、同市などの農家で組織する団体が生産した有機栽培のゴキマや雑穀を加工し販売してきた。高品質が話題を呼び、海外の有名レストランでも使われていたが、原発事故を境に受注が激減、事故前に収穫した原料を使った商品でさえも販売に支障をきたした。「厳しい基準で全戸検査するしかない」。原料測定の結果、放射性物質による影響は

わずかと分かり取引先に安全性を訴えたが、全国の市場は厳しかった。国内外の取引先が本県生産を敬遠するため、神奈川県に新工場を置き他県

産原料を使って2月から稼働させた。「県産農産物にこだわってきた社屋を曲げるようで心苦しい」。本県の農業の再生を目的としてすでに昨年、4月以降に採用された新基準値よりも厳しい基準で測定を始め、分析結果の公開にインターネットサイトとQRコードを用いるNPO法人を設立。自ら理事長に就いた。1月から自社製品などに「放射性物質



二本松の広田さん  
福島に新店舗出店

「徹底した放射性セシウム測定と情報開示で県産農産物の安全性を訴えていく」。県産農産物などを原料に使い、全国規模で商品を販売する二本松市の製油・穀類加工販売業「GNS」の広田裕介専務(33)は農業復興と県産農産物の信頼回復を切に願う。本県農業にたむかる姿勢が、NPO法人の新設、福島市への新店舗の出店計画につながっている。

「放射性物質分析済」と結果が分かるQRコードを付けた県産農産物の加工食品



「福島で農業を続ける」と話す広田さんが復興の礎となる

分析済」という表示とQRコードを貼付して販売し、消費者から評価を得ている。年内には同NPOの運営で、本県農産物の販売や、軽食を提供する店舗を福島市に開店させる予定。広田さんは「何事も臆しては始まらない。福島で農業を続け、県産農産物の消費や販売促進に取り組むことが農業復興の礎となる」と力を込めている。